





一般に外部と内部とは相互補完的なものであるが、本教材が授業で扱われる際にはこの外部としての「形」の恐ろしさやその効果について身近な具体例、社会で見られる「形」を探し出すことが多いように思われる。これは教材内容に即したものであり意義はあるが、本授業ではそれに加えて、このような話を語る語り手に注目して読むことにより、言葉が語られていく、言葉を語ることがどのような意味を持つのかを考えることを目標とした。語られた内容に注目するのではなく語るという行為そのものに注目することが、自分たちが普段行っている行為についてのこてもし